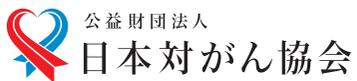


がんで苦しむ人や悲しむ人をなくしたい



お問い合わせ先

〒104-0061

東京都中央区銀座7-16-12

G-7ビルディング9階

電話: 03-3541-4771(平日10時~17時)

日本対がん協会公式ホームページ
www.jcancer.jp



日本対がん協会公式twitter
[cancerjp](https://twitter.com/cancerjp)



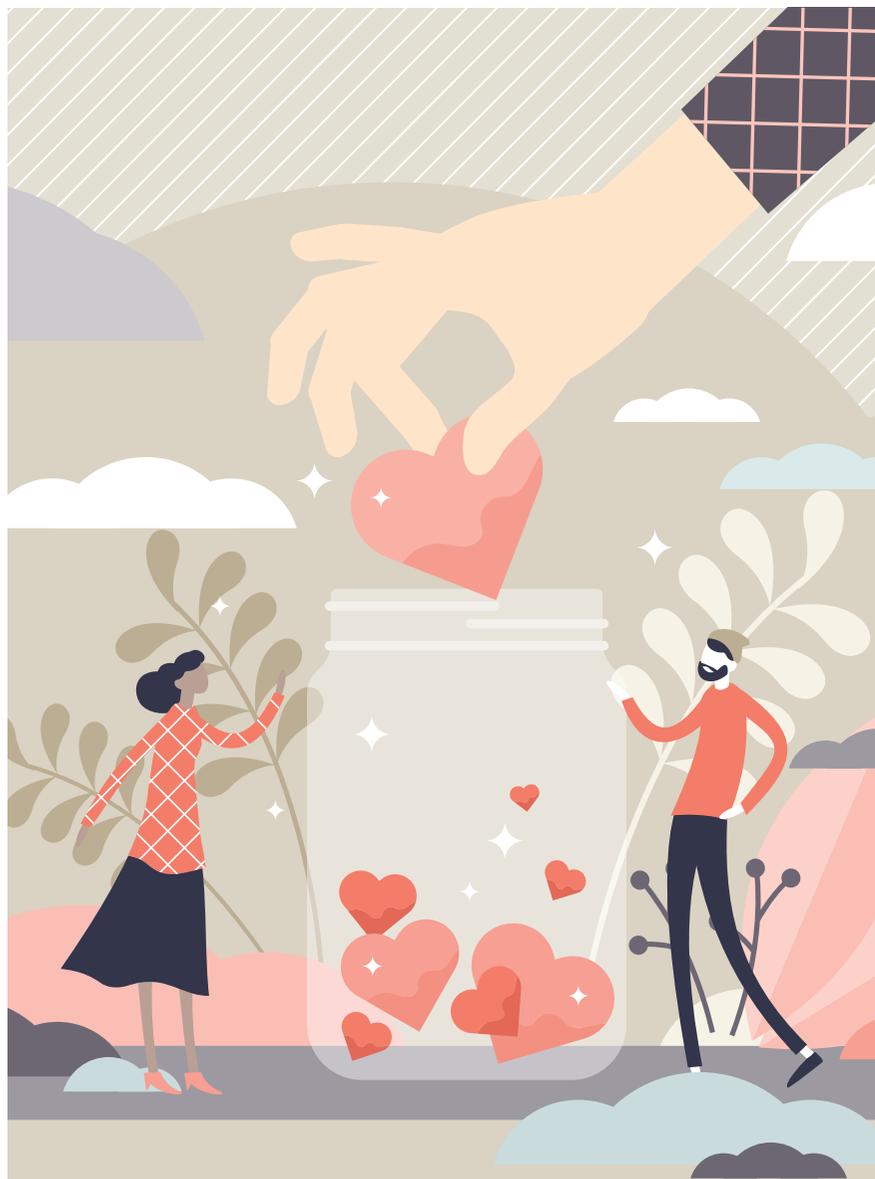
日本対がん協会公式facebook
[JapanCancerSociety](https://www.facebook.com/JapanCancerSociety)



がんで苦しむ人や悲しむ人をなくしたい

日本対がん協会 活動報告 2019

ANNUAL REPORT



日本対がん協会の活動全般について知りたい

- 寄付金の総額と活動のあらまし →P4
- 様々な取り組みと活動について →P6~15

協会からのメッセージ

- 各事業の担当者から →P5
- 会長挨拶 →P19

最新の情報とデータを知りたい

- 新型コロナウイルス感染症への対応 →P3
- 寄付金のあらまし →P4
- メールマガジンについて →P17

イベントや活動を知りたい

- ピンクリボンフェスティバル →P9
- リレー・フォー・ライフ・ジャパン →P10~11
- がんサバイバー・クラブ →P12~13
- 2020年の活動予定 →P16

寄付について知りたい

- 2019年度の寄付金について →P4
- ほほえみ基金 →P9
- 婦人科がんなどから女性を守る基金 →P14
- がん教育基金 →P14~15
- 寄付の方法 →P18

オンラインでの活動について知りたい

- がんサバイバー・クラブ →P12~13
- メールマガジン →P17
- オンライン寄付の方法 →P18

今後の取り組みについて知りたい

- 新たな取り組み(休眠預金活用事業、東京マラソン など) →P15
- 2020年の活動予定 →P16

日本対がん協会では、新型コロナウイルスの影響で不安を感じるがん患者さんに正しい情報を伝えようと、今年3月から取り組みを始めています。重症化するリスクが高いといわれるがん患者さんは、何に注意し、どう行動したらよいのかを、がんや感染症などの専門医に聞き、動画や記事を公式サイトで順次公開しています。 <https://www.jcancer.jp/coronavirus>

2020年5月末日現在 公開しているコンテンツ

がん患者さん全般の新型コロナ対策

がん研有明病院院内感染対策部 羽山ブライアン副部長
「がん治療中の人が注意すべきこと、主治医に伝えておいたほうがよいこと」
「がん患者さんが感染しないための注意ポイント」
「がん患者さんの感染、重症化のリスク」



東京大学医学部附属病院放射線科 中川恵一准教授
「がん検診、可能になれば必ず受けてください」

東京医科歯科大学医学部附属病院血液内科 坂下千瑞子特任助教
「がん治療の不安に、がんサバイバー医師からアドバイス」

がん研究会有明病院腫瘍精神科 清水研部長
「がん患者さんの『新型コロナ不安への対処法』3つのステップ」
「心に安定をもたらす具体的な方法と、精神腫瘍科の受診のめやす」

血液がんのリスクと注意点

東京医科歯科大学医学部附属病院血液内科 坂下千瑞子特任助教
「血液がんと新型コロナウイルス」



放射線治療中のリスクと注意点

東京大学医学部附属病院放射線科 中川恵一准教授
「放射線治療中または治療を受けようとする患者さんへ、新型コロナウイルスの注意点」



抗がん剤治療・肺切除のリスクと注意点

聖路加国際病院呼吸器内科 田村友秀部長
「抗がん剤治療中、肺切除の不安に専門医が回答」

喫煙の重症化リスクと注意点

東京都医師会 尾崎治夫会長
「喫煙による感染・重症化リスクと、8つの予防策」



2019年度に開催を予定していた医療従事者向けの研修会の一部、がん患者さん向けのイベントなどを感染拡大防止のため、中止または延期しました。開催につきましては、今後の状況を見ながら公式サイトなどでご案内します。

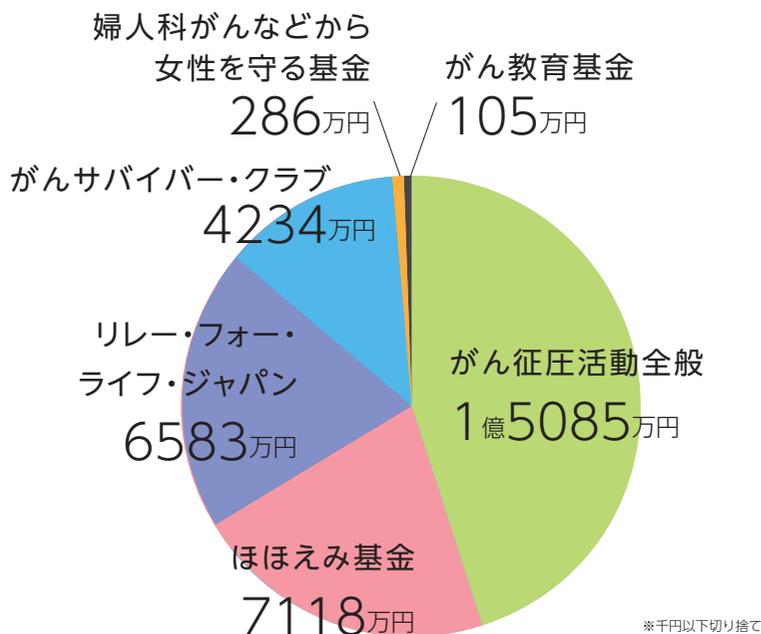
皆様からのご支援により、今年度も、各事業でがん征圧活動を推進することができました。

2019年度寄付金総額

3億3414万4414円

(法人のご寄付:76.89%、個人のご寄付:23.11%)

寄付金の主な使いみち



がん征圧活動全般:	当協会の活動全般
ほほえみ基金:	乳がんの啓発活動や患者支援活動
リレー・フォー・ライフ・ジャパン:	がんの研究助成、がん治療の専門家の育成など
がんサバイバー・クラブ:	がんサバイバーとそこをご家族をサポートする活動
婦人科がんなどから女性を守る基金:	子宮頸がんなどの婦人科がんについて 新しい検診方法の調査・研究活動
がん教育基金:	子どもたちにがんの正しい知識を伝えるための活動

がん征圧活動全般

日本対がん協会は「がんで苦しむ人や悲しむ人をなくしたい」という強い想いで、日々がん征圧活動に取り組んでいます。こうした活動は皆さまからのご支援により成り立っています。引き続き皆さまからのあたたかいご支援をお願いいたします。(東 香苗)

ほほえみ基金

乳がんは、日本人女性が一番多くかかるがんです。乳がんで悲しむ人をひとりでもなくしたい、そして笑顔を増やしていけたら、そんな皆さまの思いを「ほほえみ基金」で実現していけたらと思っています。(黒岩 由香利)

リレー・フォー・ライフ・ジャパン

「SAVE LIVES」の使命を掲げ、がん征圧・患者支援を目的に世界30か国で活動しています。世界中の多くの仲間が手を繋ぎ、力を合わせて、がんで悲しむ人や苦しむ人がなくなる社会の1日も早い実現を目指します。(平野 登志雄)

がんサバイバー・クラブ

がんサバイバーとその家族を支援するため、2017年に発足した事業です。一度でもがんと診断された事のある人の「知りたい」「治りたい」「普通の生活がしたい」という思いや、家族や大切な人を「支えたい」という気持ちをサポートします。ウェブサイトやSNSで情報を提供したり、患者家族の交流イベントを開催したりしています。(横山 光恒)

婦人科がんなどから女性を守る基金

子宮頸がん検診を定期的に受けてください。検診を受けると子宮頸がんを発症するリスクを下げられます。未受診者をゼロに——それが私たちの目標です。(小西 宏)

がん教育基金

子どもの頃から、がんに対する正しい知識を得て、将来に備えてもらいたい。がん教育のスムーズな展開を目指し、基金をもとに文部科学省選定を含む副教材の動画を4種類、これまでに制作、学校現場に提供しています。(望月 得生)

がん征圧活動

がんと、その予防についての正しい知識を伝え、早期発見・早期治療の普及のために活動を展開しています。

検診の推進

検診受診の大切さをアピール AC広告キャンペーン



「あなたと生きたい。だから、あなたと生きたい、がん検診」。こんなフレーズのポスターやテレビCMを目にされた方も多いのでは。2017年から3年連続でACジャパン

の支援団体に選ばれ、大切な人への想いからがん検診の受診を促す広告キャンペーンをテレビ、ラジオ、交通機関などで展開しました。

早期発見のために 検診無料クーポン券の発行、配布



がん検診を受診するきっかけとなるように、無料で受診できるクーポン券を発行、配布も行っています。2019年度は、乳がん3000枚、子宮頸がん700枚、乳がんと大腸がんのセット300枚を発行しました。クーポン事業には、受診者が体験談を家族や知人に話すことで検診が身近になり、検診の輪が広がるという波及効果もあります。

次世代のがん検診 新たな手法を検証



がん検診研究グループは、国立がん研究センターや、各地の支部、大学等の研究機関と一緒に血液中のバイオマーカーやmiRNAがんマーカーの研究を進めています。「次世代のがん検診」の期待がかかる方法で、早期発見が難しい臓がんなどでの実現が期待されます。一つひとつ、科学的な検証を進めています。

がん予防

禁煙活動を推進 国際会議 / グローバルブリッジ



日本対がん協会のタバコゼロ宣言に沿った活動を続けています。その一つとして、国際的な禁煙推進組織「グローバルブリッジ」のパートナーとなり、2018年から16団体の禁煙推進活動や禁煙支援の人材育成を助成しています。また、2019年10月には、国際タバコ病予防学会(TID)の学術集会を福岡歯科大学などと共催。世界約40か国から医師や行政関係者らが集まり、加熱式タバコなどをテーマに3日間にわたり議論しました。最終日に、健康的な職場の実現を目指して世界保健機関(WHO)が世界で進める、「WHO禁煙革命」キャンペーンの日本における発足式も開きました。

検診の大切さを伝える 大腸がんセミナー



日本人がかかるがんで最も多い大腸がん。年間15万人がなり、5万人が亡くなっています。人口が2.5倍のアメリカとほとんど同じ数字です。高齢化率に差があるとはいえ、日本人のほうがアメリカ人より2.5倍、大腸がん死のリスクが高いことになります。

2019年7月13日、鹿児島市で「一緒に学ぼう 大腸がん」と題したセミナーを開催しました。専門医による講演や内視鏡検査のデモンストレーションを行い、200人が来場。希望した54人が後日、検診を受診し、1人の大腸がんが見つかりました。40歳を過ぎたら年に1回の大腸がん検診を欠かさず、要精密検査となったら必ず大腸内視鏡検査を受ける。大腸がんは減らせるがんなのです。

患者さん・ご家族の支援

お気持ちに寄り添う **がん相談ホットライン・電話相談**



がん相談 ホットライン

がん相談ホットラインには、2019年度も患者さんやご家族から多くの相談が寄せられました。相談件数は1万件を超え、体のこと、心のこと、暮らしに関わることなど様々な相談がありました。経験豊かな看護師・社会福祉士がご相談者の気持ちに寄り添いながら、どうすればいいのかを一緒に考えています。仕事と治療の両立については「社会保険労務士によるがんと就労電話相談」、治療に関しては「専門医によるがん無料相談」も多くの方にご利用いただいています。

がん相談ホットラインを利用された方の声



初期治療の時からホットラインを利用しています。何年経っても再発の不安やがん患者である故の悩みは消えません。話を聞いてもらって勇気が出たし、前向きに過ごせそうです。希望を捨てないでいられたのもホットラインのおかげです。

正しい知識の普及啓発

検診を正しく行うために **医療従事者向け研修会**



がんで亡くなる人を減らすためには、有効ながん検診を正しく実施する必要があります。2019年度も放射線技師、臨床検査技師を対象にマンモグラフィ撮影技術講習会、乳房超音波技術講習会を開催し、技術指導や、認定試験を実施しました。受講生は全国の検診現場で活躍しています。

(新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、保健師・看護師研修会などは中止)

全国キャンペーンを展開 **がん征圧月間**



毎年9月を「がん征圧月間」と定め、がん、その予防についての正しい知識の徹底と早期発見・早期治療の普及に全国の日本対がん協会グループ支部あげて取り組んでいます。2019年度は愛媛県松山市で1300人が参加して「がん征圧全国大会」を開催。がん経験者で作家・作詩家のなかにし礼さんが記念講演を行ったほか、対がん運動に功績のあった

個人および団体に贈る朝日がん大賞、日本対がん協会賞の表彰式も実施しました。

乳がん検診の大切さを伝え 患者さんを支える
ピンクリボンフェスティバル



2019年で17回目の開催となったピンクリボンフェスティバルは、日本最大級のピンクリボン活動です。街を歩きながら、検診受診を呼びかけるスマイルウオークには、東京で3500人が参加しました。1600人の申し込みがあった神戸は、台風のため残念ながら中止しました。専門医が最新治療や心のケアについて講演するシンポジウムは、チケット700枚が完売する関心の高さで、活動の重要性を改めて実感しました。今後もさまざまなアプローチで活動を展開します。フェスティバルの開催には、企業の協賛金やほほえみ基金へのご寄付を活用しています。

乳がんウィークの電話相談



母の日を機会に、専門医が無料で乳がんに関するご相談をお受けしました。2019年5月13日～17日の期間中、計24の方が利用されました。

乳がんウィークの電話相談を利用された方の声



専門医に相談する機会がないので、とてもありがたかったです。丁寧に説明してもらえたのでよくわかりましたし、安心しました。

リレー・フォー・ライフ(RFL)とは

がんサバイバーやそのご家族を支援し、地域全体でがんに向き合い、がん征圧をめざすチャリティー活動です。2日間のイベントを開催し、会場ではがん患者さんやがんサバイバー、支援者の皆さんがチームを作り、仲間とタスクをつなぎながら、夜通し歩いて寄付を募ります。



2019年度の活動

初開催が2か所、10周年を迎えた地域が3か所ありました。各地の実行委員会の公式サイトやFacebookなどのほか、インスタグラムを活用して活動を広めています。RFLは、がんサバイバーやそのご家族に対して勇気と希望を与える場です。

開催地区 48か所

参加者合計 61,056名

寄付金総額 1億1657万5461円

RFLの寄付金の使いみち

① 若手医師育成のための奨学金

がん治療をますます進化させるためには、優秀な医師の育成が欠かせません。「リレー・フォー・ライフ・マイ オンコロジー・ドリーム奨励賞」は、意欲あふれる若手医師を、世界的に有名ながんの専門機関「テキサス大学MDアンダーソンがんセンター」へ研修のため派遣するプログラムで、2019年度は2名の医師が受賞しました。なお、2018年度受賞者の授賞式も行いました。



2019年度受賞者 2名

国立がん研究センター東病院呼吸器内科
宇田川 響さん
(MDアンダーソンがんセンター)

東京医科歯科大学大学院呼吸器外科学
瀬戸 克年さん
(MDアンダーソンがんセンター)



2018年度受賞者 3名

東京医科歯科大学医学部付属病院 血液内科
秋山 弘樹さん
(MDアンダーソンがんセンター)

日本赤十字社和歌山医療センター 血液内科
島津 裕さん
(MDアンダーソンがんセンター)

東北大学病院 乳腺・内分泌外科
宮下 穰さん
(シカゴ大学医学部)

② 新しい治療法・新薬の開発、研究助成

がん患者さんとそのご家族を支援するための研究助成「プロジェクト未来」。8回目となる2019年度には86件の応募があり、新たながん免疫療法開発や診断システムの開発、AYA世代(15~39歳)がん患者の交流サロン開発研究など、19件が採択されました。

RFLの寄付金は、「がん相談ホットライン」

「がん検診受診率向上」の各事業にも活用されています。

がんサバイバー・クラブ

がんサバイバー・クラブとは



ウェブやSNSによる情報発信、イベントを通じてがんサバイバーや家族を支援する事業です。SNSコミュニティも運営しています。

交流イベント **がんサバイバーカフェ**



日本対がん協会のオフィスで、「がんサバイバーカフェ」を定期的に行っています。参加者が悩みを共有したり、新しい知識や学びの場となるように、毎回テーマを設定しています。

患者力をつける **がんアドボケートセミナー**



適切な治療を受けるには患者力が必要です。心構えや医療者に向き合う姿勢、治療継続に向けた支援活動を学ぶ「がんアドボケートセミナー（ドリームキャッチャー養成講座9期）」を、7月に開催しました。がん医療の夢を語り合い、共有し、

より良い医療にしようという「マイ・オンコロジー・ドリーム」活動として、オンコロジー教育推進プロジェクトと共催、各地から30人が参加。米国MDアンダーソンがんセンターの上野直人教授が講演し、ディスカッションもしました。

600人以上が参加 **ジャパンキャンサーサバイバースデー2019**

がん患者やその家族を支援する団体が、東京・築地の国立がん研究センターに集



まるイベント「ジャパンキャンサーサバイバースデー(JCSD)」を6月に開き、612人が参加しました。2回目の開催となった2019年のテーマは「あなたの『生きる』に寄り添う人がここにいる」。国立がん研究センター中央病院精神腫瘍科長

(当時)の清水研先生の基調講演「がんを体験した心のケア」、パネルディスカッション「がん患者と家族に寄り添うことについて考える」など、心をめぐる課題を掘り下げました。ネット情報の見極め方についての実践的な講演なども行いました。

年間800件を超える配信 **がん関連注目ニュース**

スタッフがほぼ毎日、がんに関するニュースを厳選し、ホームページやSNSを通じてお届けしています。2019年度は年間800本以上を配信しました。

新連載も続々 **ウェブでの情報発信**

がんサバイバーでフォトグラファーの木口マリさんによるサバイバー視点のコラムに加え、都立駒込病院名誉院長で日本対がん協会評議員の佐々木常雄先生による「灯をかかげながら」、がん化学療法看護認定看護師のかみうせまゆさんの「忘れえぬ患者さんたち」、闘病記出版のプロ、星湖舎の金井一弘さんがお勧めの闘病記を紹介する「読み逃したくない1冊」など、続々と新連載がスタートしました。

全国の仲間とつながる **サバイバーネット**



がんを告知された方やそのご家族を支える人たちにに向けた SNS「サバイバーネット」の運用を4月に開始しました。無料で簡単に登録できて、プロフィールや病歴、体験談、患者会の情報など検索することで、全国の仲間とつながることができます。

治療中・治療後の食事の悩みにこたえる **がんサバイバーキッチン**

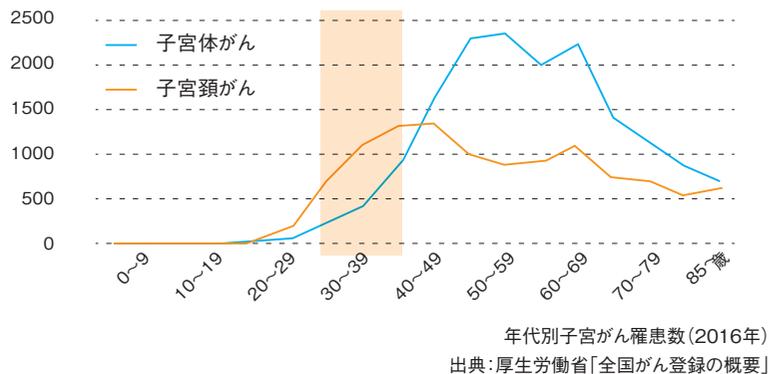
食欲不振や味覚障害だけでなく、買い物や調理の困難、食事への不安など、治療中や治療後には、さまざまな難題が生じます。そこで4月に「がんサバイバーキッチン」を立ち上げました。サイトでは、がんサバイバーとご家族などが投稿したレシピを管理栄養士の監修を経て掲載しています。

働く仲間同士で支えあう **ピアサポート**

がんのピアサポーター研修の手法を用いて、企業の管理職を対象に、がんのリテラシー向上を共に考える研修カリキュラムを開発しました。11月には朝日新聞社と共催で「ネクストリボン企業管理職研修」として、26名の役員・管理職に研修を実施しました。医師や患者の講演のほか、グループワークを通してがんへの理解を深めていただきました。

子宮頸がんの検診受診率100%をめざして

子宮頸がんは、若い女性に増えており、初期を含めると患者さんの3分の1が30代です。1年に生まれる赤ちゃんのお母さんの6割がこの世代で、検診を受けることはご本人だけでなく、赤ちゃんの健康を守るためにも重要です。啓発活動に加え、受診率向上のため、自宅で検体を採取できる「自己採取HPV検査キット」の研究も進めています。



休眠預金活用事業

金融機関の口座で10年以上出し入れがない「休眠預金」を社会貢献に使う助成金事業の「資金分配団体」に日本対がん協会が選ばれました。助成先として、がん患者の就労支援、AYA世代(15~39歳)や小児のがん患者、希少がん患者の支援、新たながん相談体制の構築などの「がん患者支援事業」を実行する団体を公募しました。25団体が応募し、6団体を選定しました。

東京マラソン2021の寄付先団体に

2021年3月開催予定の東京マラソン2021の「チャリティ寄付先団体」に選ばれました。この事業を通じていただいた寄付金は、がん征圧のための普及啓発活動や患者支援などに活用させていただきます。

がん患者団体サポート助成金

がん患者やその家族の支援を目的とする団体へ活動助成を行っています。患者に寄り添い、家族の不安を和らげるためには患者団体などのサポートが欠かせません。2019年度は、50団体以上からご応募をいただき、15団体を選んで活動助成を行いました。

がん教育基金

がんについて正しい知識を得ることが重要なのは、子どもにとっても同じ。学習指導要領の改訂で中学校では2021年度から、高校では22年度から、がん教育が全面实施されます。

日本対がん協会では、2009年から「がん教育基金」を設け、小中高生への教育に着手。出張授業を行ってきました。また、専門医が監修したがんについての教材動画を、目的に合わせて4種(一部、手話と字幕付き)制作してきました。動画(DVD)を教育現場に提供しているほか、協会内のがんサバイバーを、がん教育の外部講師として派遣しています。



タバコフリーキッズ



がん予防に欠かせない禁煙は、がん教育の重要なテーマの一つです。タバコフリーキッズは、小学生などが、ポイ捨てタバコを集めたり地元の

人の話を聞いたりして、地域のタバコ問題に向き合い、課題を発掘し、解決策を提言する力を育てるプロジェクトです。2019年度は、岡山の倉敷市と真庭市で、保健所の協力を得て2日間かけて実施しました。喫煙や受動喫煙の危険性を学んだ子どもたちが、帰宅後に家族に禁煙を呼びかけるなど、家庭や地域でも禁煙推進を広げる効果も表れています。

2020年度の活動予定

新型コロナウイルス感染者の拡大を防止し、皆さまの健康と安全を守るため、各地で開催を予定しておりましたイベントなどの一部を中止・延期することとしました。イベントの開催を楽しみにされていた方々には誠に申し訳ありませんが、ご理解とご協力のほどお願いいたします。なお、イベント開催についての最新情報は、随時、公式サイトなどでご案内いたします。

ピンクリボンフェスティバル

10月1日(木)ピンクリボンデザイン大賞受賞作品発表
スマイルウオーク東京、神戸は開催中止、WEBでの啓発に力を入れ、シンポジウム、乳房再建セミナーは動画配信。オープンセミナーは11月に東京で開催予定です。



公式サイト



Facebook



Twitter



リレー・フォー・ライフ・ジャパン

8月までに多くの会場で予定されていたイベントは、中止または延期となりました(5月末現在)。今後はオリジナルグッズの通信販売、クラウドファンディングでご寄付を募り、活動資金に充てる予定です。また、SNSを活用して、ともに想いを伝える活動も行います。



公式サイト



Facebook



Twitter



がんサバイバー・クラブ

2020年度から「治験情報の提供」をスタートしました。治験関連企業と連携して、がんサバイバー・クラブの公式サイトで誰でも簡単に検索できて、治験の応募につながる機能を追加しました。なお、7月までのイベントは、中止または動画配信などに変更しています。



公式サイト



Facebook



Twitter



メールマガジンのご案内

日本対がん協会では、最新の活動情報をお届けするメールマガジンを発行しております。がんに関する情報、患者さんやサバイバーさんをご支援する情報、スタッフ・ボランティア募集、イベント情報などをお届けします。



日本対がん協会の活動にご支援をいただいている方やご興味のある方に、日本対がん協会の活動をより広く知っていただけます。日本対がん協会メールマガジンに、ぜひご登録ください。

メールマガジンのご登録はこちらから。



ご寄付の方法について

お近くの金融機関よりお振り込みをお願いいたします。

口座名義 **公益財団法人 日本対がん協会**

みずほ銀行	銀座支店(035)	普通	1003855
三菱UFJ銀行	京橋支店(023)	普通	1718240
三井住友銀行	丸ノ内支店(245)	普通	0518150

皆様のご意向にかなった目的で、「使いみち」をご指定いただくこともできます。

ほほえみ基金

みずほ銀行	銀座支店(035)	普通	2418773
-------	-----------	----	---------

婦人科がんなどから女性を守る基金

三菱UFJ銀行	京橋支店(023)	普通	0067244
---------	-----------	----	---------

がん教育基金

三菱UFJ銀行	京橋支店(023)	普通	0067257
---------	-----------	----	---------

【郵便局(ゆうちょ銀行)からのお振込】

振込手数料が免除となる振込用紙をお送りします。

振替口座 **00180-1-5140**

口座名義 **公益財団法人日本対がん協会**

「使いみち」をご指定いただく場合は、基金名を通信欄にお書きください。

【振込用紙のご請求はこちらから】

<https://ws.formzu.net/dist/S64649830/>



【オンラインでのご寄付はこちらから】

がん征圧
活動全般ほか



がん
サバイバー・
クラブ



くわしくは→ www.jcancer.jp/donation

会長挨拶

日本対がん協会は1958年の設立当初から、皆様のご支援により、がん征圧を目標に普及啓発や患者支援に取り組んでまいりました。新型コロナウイルスで大変困難な状況の中で、小協会に暖かいご厚志をいただきまして、心より御礼申し上げます。

生存率も上昇し、「がんは治る時代」と言われるようになってきました。しかし、いまだに「不治の病」というイメージをもっている方も多いでしょう。自分ががん患者であることを周りに伝えられない人もたくさんいます。そうした方々に生きる勇気と希望を持っていただき、「がん＝死」というイメージを変えていくことも、私たちの活動の大きな柱です。

医療の進歩により、がんを超早期に発見し、適切な治療を行うことができる時代も、そこまで来ています。がんは長く付き合う病気へと変化しています。それに伴い、治療と就労の両立、がん経験者の生活の質(QOL)の向上などの新たな課題が浮上しています。禁煙の重要性もますます高まっています。

日本対がん協会は時代の変化にも対応しながら、がんて苦しむ人、悲しむ人をなくすために全力を尽くします。引き続きご支援をよろしくお願い申し上げます。

日本対がん協会 会長

垣添 忠生



主な役員

会長	垣添 忠生	元国立がんセンター総長
理事長	後藤 尚雄	朝日新聞社顧問
常務理事	石田 一郎	日本対がん協会業務執行理事
常務理事	中釜 斉	国立がん研究センター理事長
常務理事	佐野 武	がん研究会有明病院院長